

市議会だより おおまち

191号

令和5年8月1日発行

6月定例会号



慎太郎祭

針ノ木大雪渓を登る登山者達。
6月4日に行われた針ノ木岳慎
太郎祭の一幕。全国からたくさ
んの登山愛好者が集まった。

撮影者：中村編集委員



議会だよりライブラリーで過去の
議会だよりも見ることができます

特集 | 大町市議会 新体制でスタート! 2~ 3ページ
令和4年度事務事業評価選定結果 12~13ページ
みんなのひろば 16ページ

●表紙の写真を募集します!

特集

5月臨時会開催

大町市議会

新体制でスタート!!

改選後初の臨時会が5月8～10日に開催され、正副議長が選出されました。新議長のもと新たなメンバーで、わかりやすく開かれた議会となるよう取り組んでまいります。

また各委員会の委員も新たに選任されました。委員会は本会議における審議の予備的審査や調査機関として設けられています。議会に上程される議案は多岐にわたるため、専門化した各委員会での審査はとても重要となります。

議会運営委員会と常任委員会との任期は2年。これから2年間、このメンバーで市の課題に取り組んでまいります。

正副議長紹介



議長 二條 孝夫

就任あいさつ

私は議会には「行動する議会」行政に対しては「政策提言する議会」市民には「もっと開かれた議会」を目指します。議会として行政へのチェック機能の強化、議会の提言力の充実、議会の思いを行政の政策に反映させることがさらに出来れば、そのことが市民益に繋がり、延いては市民に開かれた議会となると思っています。無私無偏を旨に議長の任を務めてまいります。



副議長 太田 昭司

就任あいさつ

この度、副議長の大任を拝しました。市民の皆様にお会いする度に、3年間にわたるコロナ禍、物価高騰が、皆様の生活に大変に大きな影響を与えていることを実感します。大町市議会は、二條議長を先頭に、市民の中へ飛び込みながら、市民の皆様が安心して豊かに暮らしていける大町市を目指し、「コロナ後」の新たな時代を切り開いてまいります。

大竹 真千子 山本 みゆき 大和 幸久

議会運営委員会

議会の運営や議長の諮問に関する事項などを審査します



委員長 宮田 一男 副委員長 傳刀 健 中村 直人 中牧 盛登

常任委員会委員紹介

常設の委員会で条例に定める所管事項に応じて議案を審査します

中村 直人 一本木 秀章 小澤 悟 高橋 正

総務産業委員会

主に建設や観光に関わる案件について審査します



副委員長 二條 孝夫 委員長 大竹 真千子 堀 堅一 栗林 陽一

西澤 和保 太田 昭司 傳刀 健 大和 幸久

社会文教委員会

主に子育てや福祉に関わる案件について審査します



委員長 中牧 盛登 副委員長 山本 みゆき 宮田 一男 植松 悠一郎

特別委員会

特別委員会は、特定の事件を特定の期間で審査するために設けられています

情報化推進特別委員会

委員長 中村 直人
副委員長 西澤 和保
植松 悠一郎
傳刀 健
太田 昭司
宮田 一男
中牧 盛登
高橋 正

臭気対策特別委員会

委員長 大和 幸久
副委員長 小澤 悟
二條 孝夫
一本木 秀章
堀 堅一
栗林 陽一
大竹 真千子
山本 みゆき



※委員名は議員番号順による

次ページは、一般質問

一般質問

「一般質問は「代表質問」と「個人質問」があり、代表質問には、各会派の代表が行う「会派代表質問」と、委員会の代表が行う「委員会代表質問」があります。



3回目の国際芸術祭。市民参加が成功の鍵

政友クラブ 山本 みゆき

市民参加をどう進めるのか

答 芸術祭視察、まほろば塾開催で学びの場の提供をする

Q 開催の主旨、目的は。

A 地域課題を解決し、「新たなまちづくり」へのチャレンジだ。大町市の魅力を国内外へ発信、観光誘客による交流、市民の参加で地域づくりに取り組む原動力とする、そして



コロナ禍での第2回芸術祭では本通りを歩く観光客で賑わった

地域の消費拡大を目的とする。

Q どう運営人材を確保するか。

A サポーター登録者数を増やす呼びかけを、学生や企業・団体に積極的にを行う。

Q 市職員の負担軽減は。

A 市職員の負担に十分配慮し、運営に必要なマンパワーを確保する。

Q 市民参加と協働、具体的にどう進めるのか。

A 市民参加と協働に向け、実行委員やアートサイトの公募を行っている。市民が芸術祭を理解し、積極的に参加いただく環境づくりに向け、地域協創セミナー「北アルプスまほろば塾」を開催。多くの市民により地域資源を知り、学んでいただく機会をつくる。

Q 開催までの準備期間、成果を出し次に繋げるため、市長の想いは。

A 次の時代を託す若い世代に元気な大町市を引き継ぎ、持続可能な地域社会をつくるのが最終目標。芸術祭の開催は直ちに経済を回復させ人口増加に転ずるものではないが、継続して取り組む粘り強い努力が最も重要である。



急速に進化している「生成AI」とは

峻嶺会 いっほんぎ 秀章 ひでまさ

生成AIとは何か

答 幾つかの材料を読み込ませ自動的にコンテンツを生成する

Q 大町市としてもチャットGPTなどの生成AIの導入はあるのか。

A 県では、先月から会議録やメール、プログラムの作成、文章の要約など、チャットGPTの試験運用を行っているが、市としては、県の



生成AIには色々ある。使途によって使い分けよう

情報システム研究会に参加し、情報を収集している段階であり、現時点で市の業務においての生成AIを導入の予定はない。

チャットGPTなどの生成AIは誤った内容や著作権の侵害に該当する情報も含まれることから、国や県等の動向に注視し、その活用方法について研究する。

Q 教育現場での生成AIの取り扱いをどうするのか。

A 学校現場では、生成AIの取り扱いについて、学校現場での利用には様々な議論や懸念があるとし、批判的思考力や創造性への影響の他、個人情報や著作権保護の観点についてリスク整理が必要となり、さらに学習に直接必要としない接続について、フィルタリングシステムにより、ネット環境を構築しているが、未だに不透明な部分も多く、課題整理や検証を行う事とし、今後、国の示すガイドラインや個人情報保護委員会から発出されている注意喚起などを踏まえ、情報の正確さや意図を正しく理解するための、メディアリテラシー教育と情報モラル教育の徹底をし、生成AIの取り扱いについては慎重に取り組む。



最も生活環境に影響が少ないルート選択を

無所属クラブ おおわ 幸久 よしひさ

高瀬川堤防ルートへ見直しを

答 地域住民の意見を聞くステップを踏んで詰めている

Q 市長自らが住民の声を聞くときだ。長野県と大町市が公表した西ルート案は、予定地住民の生活環境などへの影響評価がまったくなされないまま西ルートが決定された。また、ABCルート案の地域住民



安曇野市地域では、ルートほぼ全てで河川堤防沿い利用計画だ

に市長みずから説明し意見を聞く機会は一度も持っていない。今、住民はこの説明を切望している。

A 2月、県の説明会オープンハウスでは、7割・8割の市民から進めるべきという声が表示されている。今、市長が説明する段階ではない。

Q 木崎湖以北は、市街地間が決定されたら自動的に決まるといつてきたが関係住民は納得しない。

A 決定するとは言っていない。調査が進まず説明する材料がない。木崎湖以北は現道活用区間が決定されている。

【安曇野市は県ルート案の変更を実現】

Q 基本的に高瀬川右岸を利用するルート案だが、犀川と高瀬川合流部分で県のBルートからAルートに変更を実現した。住民の声を反映し、「生活環境に配慮したもの」「優良農地への配慮」「景観に十分配慮」など7項目を、市長・議長が県に要請し実現した。大町市長は、今、同様な行動を市民から求められているのではないか。

A 3つのルート案の比較評価の結果が示されない現段階では、対案の再検討求めるのは適切ではない。



ハラスメントは、組織の構造的な問題だ

日本共産党大町市議員 みやた 一男 かずお

理事者に管理責任はないのか

答 業務上の不作為はなく、行為者本人に責任は帰属する

Q ハラスメント事案について、市民から厳しい声がある。理事者に管理責任がないとした根拠は何か。

A 理事者に業務上の不作為等があったものではなく、行為者本人に責任が帰属するものであり、指導監



トラブル続きのマイナンバーカード。マイナ保険証は使用停止を

【トラブル続出のマイナ保険証】

Q 健康保険証廃止の撤回を国に求めていただきたい。

A 紙の保険証が廃止される事により、混乱や不利益が生じない様、全国市長会等を通じて国に求めてゆく。



「子供はまちの宝」
近隣市町村との差は？

市民フラグ 小澤 悟

人口減少対策の現状は

答 出生率を引き上げる・転出を防ぐ取組みを進める

Q 今の大町市の人口減少対策で人口減少率の幅は少なくなるのか。

A 現状の施策では、移住者は増えてきているが、自然動態を中心に減少傾向が続いている。そのため、本年度、人口分析調査を実施し、人



木崎湖の睡蓮

口動態の分析を行い、併せて各種ソリューションを実施する。

Q 中心市街地を見ても、空き家、空き店舗が多く見られるが。

A 空き家、空き店舗が増えているのは事実であるが、移住者によって新たな出店が増えている。

Q 今住んでいる市民がより住みやすいまちにするべきでは。

A 指摘があったが、その通りである。
Q 子育て支援の特徴は

Q 松川村に比べ支援が足りていないように見えるが。

A 他の市町村と遜色ない支援をしている。

Q 現状、大町市の支援は、ひとり親、低所得者に限った支援が多い。子育て世代全員から、困っているという声が多いが。

A 各市町村ごと、特徴を加えた施策を行っている。大町市としても支援の充実を図っていきたい。

「観光振興の進捗状況は」

Q 仁科三湖は観光地か。

A 仁科三湖は観光資源である。

Q 大町市として稼ぐ観光地作りができていないように見えるが。

A 民間事業者と一緒に稼いで、稼ぐ仕組みを作る。



文書配布や事業委託は削減すべきではないか

ほり 堅一

自治会の負担が大きすぎる

答 自治会役員の負担軽減は重要な課題だ

Q 近年、自治会の課題となっている自治会役員のなり手不足は文書配布や市の事業委託の負担感が原因の一つと考えるが。

A 広報以外の外部団体の戸別配布文書についても配布方法を検討し



赤い羽根や緑の羽根をありがたがる市民は少ない。廃止すべきだ

今後、一層の周知を図りご理解いただけるよう努めるとともに、今の時代にふさわしい共同募金の在り方について、関係者と検討していく。



水でまちづくり、近隣自治体と連携をとれ

峻嶺会 傳刀 健

大町市「水」を使った特有の利点は何か

答 水にまつわる歴史。豊富な水資源がある

Q 水を起点としたまちづくり、みずのわプロジェクトを遂行するにあたり、どのようにして、どのような「まち」を目指すのか。

A 地域に愛着と誇りを持つ市民を原動力とし、生産物や観光資源を



透きとおった木崎湖。数々の映画やドラマのロケ地にもなった

「大町の水」と結び付け、ブランド力、関係人口の向上を図っていく。

Q 水だけでは、大町市特有の資源とは言えない。しかし、サントリー工場の立地は誇れる事実。サントリーに頼るだけでなく、官民連携の「官」の役割は何か。

A 民間事業者への支援、ホームページなどでの広報活動、事業計画の立案などに取組んでいる。今後地域活性化に向け積極的に取組む。
Q 八日町ポケットパークの親水施設完成はいつか。

A 7月下旬の完成を目指す。

Q 湖レジャーについて、富士五湖の山梨県、琵琶湖の滋賀県他湖レジャーの盛んな自治体では遊泳ポーター危険防止条例が制定されている。しかし、長野県にはそのようなものがない。仁科三湖は市の重要な観光資源、未然の事故防止策として、ルールを確立すべきでは。

A 市民や観光客が安心して安全に利用できることが重要。管理者の県、漁業協同組合地元事業者等の意見を聞きながら多面的に研究する。
Q 水でまちづくりをしている自治体は近隣にも多数ある。連携しながら進めてどうか。

A 連携するよう努める。



子育て支援として給食費医療費の無償化を

日本共産党大町市議団 栗林 陽一

給食費の無料化は出来ないのか

答 就学援助制度等の弾力的運用や助成の充実に努める

Q 学校給食食材費の補助はどうなっているのか。

A 一食当たり15円の助成を当初予算に計上している。食材費が不足する場合は必要に応じて検討する。
Q 給食費を無償化出来ないか。



全国で広がっている給食費の無償化

Q 清水地区の問題の改善の為に、どのような対策を指導してきたか。
A 畜産事業者に対して消臭設備の導入、また、作業工程の見直し等、県の指導を仰ぎながら助言・指導に努めている。

A 現時点では無償化は想定していない。国及び他の市町村の動向を注視し、慎重に判断していく。
Q 市独自に無償化出来ないか。
A 就学援助制度の弾力的な運用や地産地消の為の助成等の充実に努めている。
Q 子育て支援の一つとしてレセプト代の無償化は出来ないか。
A 福祉医療は社会全体で支える制度という観点から最小限の負担を頂いている。
Q 泉地区の現在の臭気指数はどうなっているか。
A 業者の臭気対策が完了してからは、気体排出口及び敷地境界では、全て規制基準を満たしている。
Q 業者の燃焼式脱臭装置の導入の取り止めは何か。
A 業者の対策の徹底で、規制基準値内に収まる結果となっている。現在の対策を継続していくことで導入を見合わせている。



人口減少待ったなし！一つでも多くの有効対策を！

植松 悠一郎

大町市の重要課題は何か

答 人口対策が大きな課題であると認識している

Q 地域おこし協力隊は、国から資金と万全のサポート体制が用意され、移住者増と地域課題解決に直接効果のある制度だ。増員の検討は。
A 必要に応じて追加の募集を検討する。

地域おこし協力隊に
国から交付される
特別交付税
報酬として
280万円(上限)
活動費として
200万円(上限)
※一人当たりの年額

活動費とは、地域協力活動や定住に向けた準備に使える費用

Q 市は様々な課題を抱えているが、協力隊を積極的に採用してその課題に取り組んでもらう考えは。
A 協力隊に何を求めるのかを含め、各担当課で検討してもらいたい。

Q 統計では農業・観光分野での採用が多いが大町ではどうか。
A 具体的に何をしてもらうかを含め、全庁的に前向きに検討したい。

Q 他市では地域や地域コミュニティでの活動も多くみられるが。
A 美麻・八坂支所での業務に關しての募集は検討していきたい。

Q 市の認知度について。
A 魅力ある大町市だが認知度の低さが、根本的な課題ではないか。

Q 地域ブランド調査では、認知度654位。着実に高めていきたい。
A フィルムコミッションの立ち上げはどうか。ひとりの職員で数億円の経済効果を上げている自治体もあるが。

Q 受入れ側の負担が大。メリット・デメリットを踏まえ検討したい。
A 他自治体へのヒアリングではデメリットはないとのことだが。

Q 制作側の問合せも少ない。協力隊を活用しては。
A 他の自治体等の状況を把握し、活用の方策を検討したい。

用語解説
※1フィルムコミッション
…地域活性化を目的として、ロケ誘致や撮影支援を行う公的団体



地方回帰の動きを捉え、活かす取り組みを

政友クラブ 大竹 真千子

移住の動き、地方回帰の動向は

答 移住者数は増加傾向。地方回帰の流れが増加の要因

Q 企業誘致と地方への移住という視点で考えたとき、現在の動向は。
A 新型コロナウイルスの感染拡大により働き方は大きく変化した。通信技術を活用して時間や場所の制約を受けず柔軟に働くことが可能となった。



県が提案する「信州リゾートテレワーク」のサイト画面

この動きの中、サテライトオフィスは、企業の本社など拠点から離れたところに設置されるオフィスとして空き家や遊休施設の有効活用と企業誘致による雇用の創出の手法として有効な手段の一つと認識している。

Q 移住・定住の流れや動向は。
A 直近3年の移住者数は、毎年50世帯90人を超えて推移し、7割は県外から。移住相談件数も増加傾向にあり当市への関心の高まりを感じる。相談時に当市を選択した動機や仕事の内容を聞くと、山岳や冬季のスポーツ、自然環境への関心の高さに加え、2割の人が農林業に携わること并希望。また、移住前の仕事をテレワークで継続する人が増えている。

Q 企業誘致に関する広報活動を戦略的に展開してほしいがどうか。
A サテライトオフィス設置の希望についてアンケート調査を実施し、需要の把握に努める他、定住促進施策と連携しホームページをリニューアルすることとしている。議員指摘のとおり、地方回帰の人の流れを意識した企業側への情報発信は重要な視点であることから、テレワークが可能な施設の掘り起こし、県とも連携して広く情報発信に努めていく。

Q 相談のハードルを下げるため、庁外に相談窓口を設置するなど必要ではないか。
A 相談窓口のありかたを検討、体制の強化を図ってきたい。

Q アフターコロナの病院改革は
A 藤本院長のもと、病院改革が進んでいる。利用者のため、職員の働きやすい職場のため、今後の経営ビジョンをお聞きする。

Q オンライン診療などのデジタル化や、職員の専門人材化などの取り組みを通じ、地域の皆様の人生を支えられる、そして職員の働きやすい病院を創造していく。

Q 専門人材の活用、*プロパー化は効率的な病院経営や、各職員が専門性を最大限活かして働ける職場のために必須だと思うが詳細は。
A 外部コンサル会社を経営に活かしている。また、公立病院での勤務経験のある職員を採用し、事務補助等を厚くする等、経営機能の強化を図っている。更に活用を進めたい。

Q 子育て中の職員のため、病院付属託児所*さらりの拡充はできないか。
A 拡充のため担当課や事業者に協力をお願いしていく。



ハラスメント防止に
具体的な仕組みづくりを

政友クラブ 中村 直人

再発防止に専門家の介入が必要

答 弁護士などの外部専門家の活用を検討していく

Q いわゆる「セカンドハラスメント」を防ぐため、対応マニュアルが必要ではないか。
A 今般の反省に立ち組織する「再発防止検討委員会」で検討、年内には対策方針に盛り込んでいく。



厚生労働省はポスターでハラスメント防止を呼びかける

Q 子育て中の職員のため、病院付属託児所*さらりの拡充はできないか。
A 拡充のため担当課や事業者に協力をお願いしていく。



自主防災会等を通じ災害の想定、避難所の運営などを学ぶ事も重要



減災への取り組みが
市民の命を守る

政友クラブ 西澤 和保

地域に沿った防災計画が必要

答 幅広い関係団体との協議で防災計画の充実を図る

Q 大町市防災計画はどんなものなのか。
A 法律・条例に基づき、11の災害を想定して策定されている。加えて、近年の異常気象などによる災害への対策も盛り込んでいく。

Q 自治会はもとより、職員への訓練はどう行われているのか。
A 防災・減災講習会などの実施、避難所開設・運営訓練を行い、多くの市民へ参加を呼びかけ実施している。職員に対しては、通常の訓練は定期的に行っているが、避難所の開設等の訓練や教育は、非常に重要であることから、講習会などへ率先して参加し、取り組んでいく。

Q タイムラインの重要性を、市民や自治会などに浸透させなくてはならない。
A 市としてもタイムラインは非常に有効ととらえている。ホームページや、自治会・自主防災会へチラシなどを配布しているが、防災訓練などに取り入れ、普及に努める。

Q 一地域に一人、防災士の配置を目指しては。
A 防災の専門知識を備えた防災士の普及には、補助制度を活用し、普及に勤めたい。また、地域防災の要としての消防団員への防災士取得も今後検討して行きたい。

Q 避難所開設の問題点を早期に改善せよ。
A 問題となった事例には、地域と事前協議を行い、速やかな開設・避難となるよう改善に努める。

用語解説
※2プロパー
…一般的には、直接雇用職員のこと。
ここでは、経営改善のため、病院が独自の視点で直接採用する専門人材のことを指す

議員が質した6月定例会

こんなことが決まりました！

議案第42号 令和5年度大町市一般会計補正予算(第3号)

結果 全会一致で可決

シンガポールをターゲットにした観光資源活用事業

議案の概要 「観光課所管」 シンガポール国立大学生と長野県立大学生の参加により実施する、モニターの企画運営と、海外向けSNSアカウントの開設及び情報発信にかかる委託料 予算額 330万円

委員会審査

業務委託先はどのような企業が。 県が進める、おためし立地チャレンジナガノ重点支援枠において、当市の課題に対して応募のあった企業10社のうち、最もマッチングした企業となる。

秋、大町市で出張アートライン展

議案の概要 「生涯学習課所管」 安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館から芸術作品を20点ほど集め、10月頃に市内で展示を行う。 予算額 57万円余

委員会審査

安曇野アートラインに加盟している自治体は。 5市町村で、白馬村、大町市、池田町、松川村、安曇野市である。 事業の内容は。 大町市には美術館がない。多種多様な芸術作品を一堂に集め、市民の皆さんに芸術を身近に感じていただく。今回、元気づくり支援金を活用する。芸術の秋に大町市で芸術に触れる機会をつくる。

システム改修費の圧縮はできるか

議案の概要 「情報交通課所管」 10月の生活扶助基準額等の見直しに伴い、生活保護システムの改修業務委託料を計上 予算額 250万円余

委員会審査

制度が変更されるたび、システム改修費が必要となるが、他の自治体とシステムを共同利用することはできないか。 データベースは個人情報情報を保有しておりセキュリティが担保できないため他の自治体と共有することは困難。今後、基幹業務システムについては、国の標準化されたシステムに移行することとなり、制度改正によるシステム改修費用も均一化されると考える。

大町市辺地総合計画策定

議案の概要 「注1 辺地に関する公共的施設の総合整備のため、有利な財源である辺地対策事業債を活用するための計画策定」 結果 全会一致で可決

委員会審査

辺地対策事業債は、どのような事業に優先して活用するのか。 道路維持事業をはじめ、八坂診療所移転新築事業、簡易水道整備事業、CATV網光化対策事業などのハード事業に活用し、辺地区以外の地域は過疎対策債の活用を検討していく。

注1 辺地 交通条件やその他の諸条件に恵まれない山間地等

土地改良区 決済金を助成

議案の概要 「農林水産課所管」 水田活用直接支払交付金の交付対象水田の要件見直しによって、水田を畑地化する農業者に対して、土地改良区決済金を助成 予算額 506万円余

委員会審査

畑地化促進事業補助金と水田活用直接支払交付金との関連性は。 水張りができない水田に対して関連するものとなる。



「耳の聞こえ相談会」で補聴器利用推進

議案の概要 「福祉課所管」 高齢者に補聴器の購入を助成、補助金額は上限3万円、購入金額の3分の1(住民税非課税世帯は補助率3分の2) 予算額 45万円

委員会審査

対象者は。 ①市税を滞納していない65歳以上の市民②聴覚障害の身障手帳の交付を受けていない人③補聴器の装用が必要であると医師が判断した人④市民税の所得割が46万円を超えない人 難聴が進む前の早い段階での利用が有効だ。また、馴染むまで時間が掛かることを周知できるか。 気が付かないうちに難聴が進むことがある。「耳の聞こえ相談会」等で周知する。

議会から市長へ 決議文を送付

全会一致で 市政に対する 市民の信頼回復を求める

議会は、職員のセクシャルハラスメントなど、相次ぐ不適切事案を受け、理事者に対し「市政における市民の信頼回復に関する決議案」を全会一致で可決し、市長に提出しました。決議書では「職員の倫理規律の見直しやコンプライアンスの徹底」、「不適切事案に対する責任の明確化と対処」「理事者側が示した改善策の確実な履行」などを求めるもので、市長より「真摯に受け止め、再発防止に向けた新たな取り組みを進める」との回答がありました。議会としても引き続き厳しくチェック機能を果たして参ります。



6月27日市長へ決議文を手渡す

次ページは、特集

決算審査特別委員会設置

ここに注目！

令和4年度事業の成果と課題は何か

第1分科会 (総務産業委員会所管)

各議員 注目の視点

- 住民の要望にこたえられているか検証が必要。
- 市民ニーズにあっているか中味まで検証したい。
- 輸出による販路拡大による成果などを検証し、事業の拡大の必要性も含め検証したい。
- 農産物の海外への輸出は必要であるが、しっかりと事業として成り立って行けるのか検証が必要。
- 香港でのおにぎり専門店の出店や、市内事業者のシンガポールでの農作物販売など、近年大きな動きがある。
- 計画目標は、受け身の事業から攻めの事業にするためには。
- 起業者の動向を確認し起業後のフォロー、移住への成果、企業支援補助金の費用対効果などを検証したい。
- コロナ禍を経て大きなダメージを受けた山岳観光に関わる事業の拡大も含め検証したい。
- 登山道の整備は進んでいるのか。
- 三ツ俣地区へバス運行も始まった。また、アフターコロナにおいて、自然を求める観光ニーズが高まっている。

■評価対象とした8事業の概要

■市民バス運行事業

暮らしやすい都市基盤の整備



市民の足となるふれあい号

■農業マーケティング事業

地域の特性を生かした農林水産業の振興



香港のおにぎり専門店

■創業支援事業

商工業の振興による地域経済の活性化

■山岳観光推進事業

観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進

■事務事業評価実施

9月の決算審査に向け、今年度の決算審査特別委員会が設置されました。この特別委員会では、昨年度のお金の使い道を審査する決算審査とあわせ事業の成果を評価する事務事業評価を行います。事務事業評価にあたり、150の政策的事業のうち、特に検証が必要と考える事業を分科会ごとに選定しました。各事業の評価と決算の審査内容については、次号でお伝えします。

第2分科会 (社会文教委員会所管) 各議員 注目の視点

■ICT活用推進事業

心豊かにたくましく生きる子どもの育成



ICT(情報通信技術)による授業

■児童クラブ運営事業

子育て支援の充実

■認知症総合支援事業

健康で長生きできる社会の実現を



高齢者の体操教室

■付属園整備事業

多様な分野の学習活動の促進

- 全国的な新学習指導要領に基づいた事業だけでなく、当市の進捗はどうか。有効な活用はされているか。遅れはないか。
- 全ての児童生徒への支援となっているか。
- 今後の教育にとって必須の技術であるから。
- 急速に進むICT化の中で、リスク評価と対策は妥当か検証が必要では。
- 現状の課題と改善点について確認したい。
- 共働きの保護者が増加する中、放課後の児童の保護、健全育成の場として重要度は増している。
- 子どもたちの「居場所」の必要性が叫ばれている。児童クラブは、子どもたちが抱える様々な困難(貧困や虐待など)を発見する重要な居場所となっている。
- 事業費予算2600万円の内、報酬が2400万円、92%を人件費が占めているが、現状の課題も含めて担当課での評価を確認したい。
- 高齢化と共に認知症患者数が増加している。家族の心のケアなくして、本人の尊厳を守ることは難しい。相談内容の解決に結びついたのか。本人に安らぎはあるのか。
- この度、認知症基本法が参院本会議にて可決・成立した。また、広域連携自立圏事業であった「認知症初期集中支援チーム」の事業が各市町村の事業へと移行した。現在の市の認知症支援事業の進捗と課題を探りたい。
- 展示方法や利用者への新たな取り組みなどを検証したい。また、付属園と東山低山帯との一体的な構造整備などができないのか模索したい。
- 観光資源としても活用できるよう付属園整備計画に沿った整備が行われているのか。実際の運営・活用状況はどうか。

決算審査特別委員会での審査を経て最終評価決定! → 審査結果は次号!



令和5年5月臨時会および6月定例会 提出案件の審議結果

◇賛否が分かれた案件

議案・陳情の原案に対して「賛成は○」「反対は●」で表示
議長は議事進行のため「賛成」「反対」の意思表示はしない

議案番号等	案件	議員												結果
		日本共産党	無所属	市民クラブ	政友クラブ	峻嶺会	公明	無	無	無	無	無	無	
報告第6号	専決処分の報告について 専第6号 令和4年度大町市一般会計補正予算(第14号)	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
報告第11号	専決処分の報告について 専第17号 令和5年度大町市一般会計補正予算(第1号)	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
陳情第7号	北アルプス国際芸術祭2024について、実施前に市民へのアンケート調査等による検証・見直しを求める陳情	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	不採択
陳情第8号	松糸道路を市民と共に考える場を求める陳情	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	不採択
陳情第9号	松糸道路 木崎湖以北の計画の説明を求める陳情	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	不採択

◇全会一致で承認・同意・可決・採択された案件

議案番号等	案件	結果
報告第2号	専決処分の報告について 専第2号 大町市税条例の一部を改正する条例	承認
報告第3号	専決処分の報告について 専第3号 大町市都市計画税条例の一部を改正する条例	承認
報告第4号	専決処分の報告について 専第4号 大町市国民健康保険条例の一部を改正する条例	承認
報告第5号	専決処分の報告について 専第5号 大町市国民健康保険税条例の一部を改正する条例	承認
報告第7号	専決処分の報告について 専第7号 令和4年度大町市国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	承認
報告第8号	専決処分の報告について 専第8号 令和4年度大町市後期高齢者医療特別会計補正予算(第4号)	承認
報告第9号	専決処分の報告について 専第9号 令和4年度大町市公営簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)	承認
報告第10号	専決処分の報告について 専第10号 令和4年度大町市農業集落排水事業会計補正予算(第2号)	承認
報告第12号	専決処分の報告について 専第19号 令和5年度大町市一般会計補正予算(第2号)	承認
議案第35号	監査委員の選任について	同意
議案第36号	大町市辺地総合整備計画の策定について	原案可決
議案第37号	市道路線の廃止及び認定について	原案可決
議案第38号	大町市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第39号	大町市手数料条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第40号	大町市公民館条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第41号	大町市文化会館条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第42号	令和5年度大町市一般会計補正予算(第3号)	原案可決
請願第5号	「さらなる少人数学級推進と教育予算の増額」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書提出について	採択
請願第6号	「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める意見書提出について	採択
議事第2号	「さらなる少人数学級推進と教育予算の増額」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書	原案可決
議事第3号	「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める意見書	原案可決
議事第4号	市政における市民の信頼回復に関する決議	原案可決

6月定例会最終日討論の内容を要約してお伝えします

討論は議案等の採決の前に、なぜ反対なのかなぜ賛成なのか、議員個人の意見を表明し、意見の異なる議員に賛同を求めるために行われます。

陳情第7号
北アルプス国際芸術祭2024について、実施前に市民へのアンケート調査等による検証・見直しを求める陳情

原案に反対

全国への当市の宣伝効果や、経済施策として成果があがっている。職員負担軽減や、経済効果をもっと高める等、改善をしながら、開催を。(中村 直人)

成功のカギは市民参加。第3回北アルプス国際芸術祭は2024年9月13日から11月4日まで53日間の会期で開催決定、準備が進んでいる。(山本 みゆき)

原案に賛成

実行委員会関係者だけの検証ではなく、市民全体の声を聴くアンケート等で、第三者による検証を行い開催の是非を検討すべき。(栗林 陽一)

芸術祭は大町市の創生・人口減少を止めるとしたが成果が見えない。せめて、全市民のアンケートで民意を確認の上、是非の判断を。(大和 幸久)

陳情第8号
松糸道路を市民と共に考える場を求める陳情

原案に反対

2月に開催したオープンハウス等も含め、相当数の説明会で意見集約されており、不採択が妥当である。(西澤 和保)

住民説明会やオープンハウスなどを通して、市民と共に考える場の創出はすでに成されている。今後もしかり易い情報提供に期待する。(大竹 真千子)

原案に賛成

松糸道路をまちづくりの観点から市民と一緒に考える場をつくること。その場の意見を元に、県と連携して計画に反映することは必要。(宮田 一男)

安曇野市では、市長・議長連名で、住民の生活環境、景観等について要望、住民のルート案に変更した。大町市長も実行すべきだ。(大和 幸久)

陳情第9号
松糸道路 木崎湖以北の計画の説明を求める陳情

原案に反対

令和3年12月に木崎湖以北の現道活用区間について、住民に分かり易い道路の情報を早期に提示することを明記した意見書を県に提出済である。(大竹 真千子)

市街地ルートの選定を急げ。県は市街地ルートの決定後、木崎湖以北のルートに取り掛かる。また県は木崎湖以北の調査を始めている。(山本 みゆき)

原案に賛成

木崎湖以北の道路カルテに基づく説明を長野県に求める陳情は、検討会や説明会を求める市民の声に答えるものであり、早期に行うべき。(宮田 一男)

国道利用案だが、必要な3mの幅員を取れない所がほとんどだ。生活環境悪化など心配する住民への説明を直ちに実施すべきだ。(大和 幸久)

次ページは、みんなのひろば

みんなのひろば

移住してきた みなさんに聞く

議員が市民のみなさまの声を取材してつくるみんなのひろばです。
今回は、大町市に移住された方に、大町の魅力や、期待していることなどを聞きました。

- 1 移住の動機は
- 2 大町の魅力
- 3 こんなところが変わればいいな

- 1 大町市はワインブドウ栽培の適地と思い、大町でワインブドウの栽培とワイン作りをしたいと思い、移住した。
- 2 水がおいしく、お米がおいしい、加えて地区の人がおだやか。
- 3 ワイン産業を発展させる手助けをしてほしい。



やの よしお
矢野 喜雄さん(平)
埼玉県出身
ワイン農家



まなべ みつき
真鍋 充喜さん(八坂)
神奈川県出身
大町有線放送勤務

- 1 都会をはなれて、田舎の山奥で暮らしたかった。
- 2 空気がおいしく、地域の人たちがやさしい。
- 3 八坂地区のふれあいバスの土日運行をしてもらいたい。



にしやま ゆう
西山 勇さん(平)
京都府出身
プロスノーボーダー・
スノーボードブランド経営

- 1 白馬村に30分で行くことができ、落ち着いた生活ができる。白馬村から離れて暮らすことで、仕事との切り替えがしやすい。
- 2 四季折々の景色が楽しめること。水と空気がおいしいこと。人が多すぎないこと。
- 3 多くの移住者が、大町にものすごく魅力を感じている。その魅力を大切にして、もっとうまく活用してほしい。



いとう ゆうき
伊藤 裕規さん(常盤)
愛知県出身
山岳ガイド

- 1 ガイド業と自身の遊び(スキー、クライミング)を続けるに最適な場所だった。
- 2 都会過ぎず、田舎過ぎない暮らしやすさ。山へのアクセスの良さ。ふとした時にも見ることのできる自然の景色。
- 3 行政手続きのIT化。空き家を持っている方などへ、積極的に空き家バンクやそれ以外の方法で公開、売却する手助けをするなどしてほしい。

あとかぎ



市民の皆様の声を反映し、より良いまちづくりに取り組むための議論を重ね、皆様に詳しく伝えるために議会だよりを制作してまいります。今後も市民の声を大切にし、さらなる発展のために尽力してまいります。
(編集委員長 一本木秀章)

次回9月定例会予定

- 開 会 8月29日(火) 午前10時～
- 一般質問 9月 6日(水)～8日(金)
- 最 終 日 9月20日(水) 午前10時～
討論・採決

傍聴にお越しの際は

- 傍聴をご希望の方は議会棟2階の議会事務局で申込書をご記入ください。

インターネットと市ケーブルテレビで放送しています。録画・再放送もご覧いただけます。

本会議の
生中継

大町市議会 議会中継

議会だより編集委員

- 【委員長】 一本木秀章 【副委員長】 大和幸久
【委員】 植松悠一郎 堀堅一 中村直人 栗林陽一 小澤悟 山本みゆき

